

## 2) 調査結果

### a) 陸上植物、大型水生植物

現地調査及び聴取による植物相の確認状況を表 4.1.6-5 に示す。

陸上植物、大型水生植物については、現地調査において 164 科 1,242 種、文献調査において 16 科 22 種、計 164 科 1,242 種の植物種が確認された。このうち、丘陵地では、アカマツ、ツブラジイ、スダジイ、コナラ等が、河川敷ではタチヤナギ、ツルヨシ等の河川環境に見られる種が、樹林内ではラン等の樹林の林床に生育する種等が確認された。

表 4.1.6-5 植物相の確認状況

項目	分類群			現地確認		文献確認		総計		
				科数	種数	科数	種数	科数	種数	
陸上植物、大型水生植物	コケ植物門*			1	2	-	-	1	2	
	シダ植物門			20	126	6	9	20	126	
	種子植物門	裸子植物亜門			7	8	2	2	7	8
		被子植物亜門	双子葉植物綱	離弁花亜綱	83	529	6	7	83	529
				合弁花亜綱	31	285	1	3	31	285
			単子葉植物綱		22	292	1	1	22	292
合計			164	1,242	16	22	164	1,242		

注)1. 確認種数(亜種、変種及び品種を含む)には、「(2) 植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況」及び「4.1.7 生態系」の調査における確認種を含んでいる。

2. \*: 蘚苔類は環境巡視で確認されており、その後重要な種調査を行っている。

3. -: 文献その他の資料から情報を得ることができなかったことを示す。

### b) 植生

対象事業実施区域及びその周辺の区域における植生は、表 4.1.6-6 及び図 4.1.6-2 に示すとおりであり、林齢を加味した 18 区分の植生、土地利用上の区分等により構成されている。丘陵地における嘉瀬川流域の植生は、スギ・ヒノキ植林によってそのほとんどの面積が占められており、スギ・ヒノキ植林に混じって常緑広葉樹林、落葉広葉樹林及びアカマツ林が点在している。嘉瀬川の河川沿い、谷あいには水田耕作地が分布している。



表 4.1.6-6 対象事業実施区域及びその周辺の区域の植生

区分	分布域
常緑広葉樹林(壮齢林)	タブ類、シイ類等が優占する植生区分である。権現山西側斜面、東畑瀬東側の斜面及び古湯北側斜面に、ややまとまって分布する。タブ類、シイ類等を含み、樹冠が発達していることから壮齢林であると判断される。
常緑広葉樹林(若齢林)	タブ類、シイ類等が優占する植生区分である。古湯、西畑瀬に小面積で分布する。樹幹の発達程度で若齢林であると判断される。
常緑広葉樹林(低木林)	タブ類、シイ類等が優占する植生区分である。菖蒲、木村等に小面積で分布する。樹幹の発達程度で低木林であると判断される。
落葉広葉樹林(壮齢林)	コナラが優占する植生区分である。貝野地区の貝野川左岸側斜面及び権現山西側斜面にややまとまって分布する。
落葉広葉樹林(若齢林)	コナラが優占する植生区分である。貝野地区の貝野川左岸側斜面、古湯城跡近辺及び古湯北側斜面にややまとまって分布する。
落葉広葉樹林(低木林)	コナラが優占する植生区分である。貝野地区の貝野川左岸側斜面及び権現山西側斜面にややまとまって分布する。
アカマツ林	アカマツが優占する植生区分である。古湯北側の斜面に最もまとまった面積で分布し、主に斜面上部から尾根筋にかけて分布する。
スギ・ヒノキ植林	スギ、ヒノキ等によって構成される植林である。調査地域内において最も広い面積を有し、丘陵地、高標高地のほとんどがこの植生によって占められる。
スギ・ヒノキ植林(新植地)	スギ、ヒノキ等によって構成される植林のうち、植林後時間がまだ経過しない植生である。スギ・ヒノキ植林の中にパッチ状に小面積で分布する。
竹林	メダケ、モウソウチク等が優占する植生区分である。河川沿いや斜面等にパッチ状に小面積で分布する。
伐採跡地	植林が伐採された後、まだ植林されていない状態の植生区分である。スギ・ヒノキ植林内にパッチ状に比較的まとまった面積で分布する。
荒地雑草群落	雑草群落が優占する植生区分である。西畑瀬の嘉瀬川右岸側の山地斜面等に比較的まとまった面積で分布する。
休耕田雑草群落	休耕田に雑草群落が優占する植生区分である。嘉瀬川沿いの東畑瀬、西畑瀬の河川沿いの地形に比較的まとまった面積で分布する。
耕作地(水田・畑地等)	水田、畑地等によって構成される植生区分である。古湯、須田、鷹ノ羽より上流の嘉瀬川及び神水川、浦川沿いの山地に囲まれ、河川が流れる谷沿いの地形に広く分布する。
果樹園	須田及び北川にのみ点在する。
集落・施設・人工構造物	古湯近辺、西畑瀬、栗並川上流部、神水川上流部の河川沿いに分布する。
人工裸地	古湯、鮎瀬の北側斜面に点在する。
開放水面	嘉瀬川、神水川、浦川、大串川等の各河川である。

c) 付着藻類

現地調査及び聴取による付着藻類相の確認状況を表 4.1.6-7 に示す。

付着藻類については、現地調査において 6 綱 122 種、文献調査において 3 綱 244 種、計 6 綱 287 種の植物種が確認された。確認種の多くは珪藻綱であった。

表 4.1.6-7 付着藻類相の確認状況

項目	分類群	確認種数		
		現地確認	文献確認	総計
付着藻類	藍藻綱	8	5	11
	紅藻綱	2	-	2
	珪藻綱	100	238	262
	黄緑藻綱	1	-	1
	ミドリムシ綱	1	-	1
	緑藻綱	10	1	10
合計		122	244	287

注) - :文献その他の資料から情報を得ることができなかったことを示す。



## (2) 植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

### 1) 調査の手法

#### a) 調査すべき情報

「(1) 種子植物その他主な植物に係る植物相及び植生の状況」の調査結果を踏まえ、天然記念物、レッドデータブック等による学術上又は希少性の観点から抽出した調査対象とする植物の重要な種を表 4.1.6-8 に示す。これらの植物の重要な種の生育環境の状況等を把握するため、分布、生育の状況及び生育環境の状況について調査した。

#### b) 調査の基本的な手法

調査の基本的な手法は、文献その他の資料により生態に関する情報を整理するとともに、現地調査の情報により、分布、生育の状況及び生育環境の状況の整理及び解析によった。また、専門家からの聴取により重要な種の分布等の情報を補った。現地調査の基本的な手法は「(1) 種子植物その他、主な植物に係る植物相及び植生の状況」の現地調査の手法及び現地調査の内容並びに表 4.1.6-9～10 に示す現地調査の手法及び現地調査の内容とした。

#### c) 調査地域・調査地点

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺の区域から下流の嘉瀬川大堰までの区間とした。

調査地点及び調査経路は、重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とした。

なお、調査地点及び調査経路は重要な種の保護の観点から示さない。

#### d) 調査期間等

現地調査の期間等は「(1) 種子植物その他主な植物に係る植物相及び植生の状況」の調査期間等及び表 4.1.6-9 に示す調査期間等とした。調査時期は、重要な種の生態の特性を踏まえ、開花期や結実期、同定が可能な時期を勘案して設定し

た。現地調査の実施状況は「(1) 種子植物その他主な植物に係る植物相及び植生の状況」の調査の実施状況及び表 4.1.6-11 に示す調査の実施状況とした。

表 4.1.6-8 調査対象とする植物の重要な種(1/2)

No.	科名	種名	a 天然記念物	b 種の保存法	c レッドデータブック レッドリスト	d 佐賀県 レッドデータブック	e その他重要な種
1	ウキゴケ	ウキゴケ <sup>*1</sup>			CR+EN		
2		イチョウウキゴケ <sup>*2</sup>			CR+EN		
3	ハナヤスリ	ナツノハナワラビ					<sup>*3</sup>
4	イノモトソウ	オオバノハチジョウシダ					<sup>*4</sup>
5	オシダ	ミドリカナワラビ					<sup>*5</sup>
6		ツクシイワヘゴ					<sup>*6</sup>
7	メシダ	シロヤマシダ					<sup>*7</sup>
8	ウラボシ	サジラン					<sup>*8</sup>
9		アオネカズラ					<sup>*9</sup>
10	クルミ	オニグルミ					<sup>*10</sup>
11	スイレン	ヒメコウホネ			VU	VU	
12	ウマノスズクサ	サンヨウアオイ					<sup>*11</sup>
13		ウンゼンカンアオイ			VU	NT	
14	アブラナ	コンロンソウ				NT	<sup>*12</sup>
15		コイヌガラシ			NT		
16	ベンケイソウ	アオベンケイ				NT	<sup>*13</sup>
17	ユキノシタ	チダケサシ				VU	<sup>*14</sup>
18		ネコノメソウ					<sup>*15</sup>
19		ウメバチソウ				VU	
20	ミソハギ	ミズマツバ			VU		
21	アリノトウグサ	フサモ				NT	
22	ウコギ	ヤマウコギ				NT	
23		トチバニンジン				VU	<sup>*16</sup>
24	ツツジ	ツクシシャクナゲ				NT	<sup>*17</sup>
25	ヤブコウジ	カラタチバナ				VU	
26	ナス	イガホオズキ				NT	
27	ゴマノハグサ	カワヂシャ			NT		<sup>*18</sup>
28	タヌキモ	ミミカキグサ				VU	
29	キキョウ	ツルギキョウ			VU	NT	
30	キク	カンサイタンポポ				VU	<sup>*19</sup>

表 4.1.6-8 調査対象とする植物の重要な種(2/2)

No.	科名	種名	a 天然記念物	b 種の保存法	c レッドデータブック レッドリスト	d 佐賀県 レッドデータブック	e その他重要な種
31	トチカガミ	スブタ			VU	EN	
32		ミズオオバコ				NT	*20
33	ユリ	シライトソウ				NT	*21
34	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ				VU	*22
35	ホシクサ	クロホシクサ			EN	EN	
36	イネ	サヤヌカグサ				VU	
37	ガマ	コガマ				NT	
38	カヤツリグサ	アブラシバ					*23
39		ビロードテンツキ				CR	
40	ラン	ムギラン			VU	VU	*24
41		エビネ			VU	VU	
42		ナツエビネ			VU	VU	*25
43		キエビネ			EN	EN	
44		キンラン			VU	NT	
45		シュンラン				NT	
46		ツレサギソウ				EN	
47		カヤラン				VU	*26
48		ナゴラン			CR	CR	
49		クモラン				VU	*27
50		オニノヤガラ属 <sup>*28</sup>				EN	

注)1.a:文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)又は文化財保護条例(佐賀県条例(昭和 51 年条例第 22 号)、佐賀市条例(昭和 51 年条例第 37 号)、川副町条例(昭和 55 年条例第 12 号)、東与賀町条例(昭和 54 年条例第 21 号)、久保田町条例(昭和 55 年条例第 4 号)、大和町条例(昭和 57 年条例第 6 号)、富士町条例(平成 7 年条例第 2 号)、小城町条例(昭和 57 年条例第 33 号)、三日月町条例(平成 10 年条例第 19 号)、脊振村条例(昭和 62 年条例第 11 号)、三瀬村条例(平成 10 年条例第 33 号))に基づく天然記念物

2.b:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種及び緊急指定種

3.c:「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I(維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 9 植物 II(維管束植物以外)(環境庁 2000 年 12 月)」<sup>2)</sup>の掲載種

CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧

4.d:「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>の掲載種

CR:絶滅危惧 I 類種 EN:絶滅危惧 I 類種(1) VU:絶滅危惧 II 類種 NT:準絶滅危惧種

\*:該当する引用・参考文献の番号を示し、項末に一覧を示す。

- 5.e:その他、専門家の意見等により、学術上又は希少性の観点から重要と認められる種
- 6.\*1のウキゴケ及び\*2のイチヨウウキゴケは、環境巡視で確認されており、その後重要な種調査を行っている。
- \*3のナツノハナワラビ、\*4のオオバノハチジョウシダ、\*5のミドリカナワラビ、\*6のツクシイワヘゴ、\*7のシロヤマシダ、\*8のサジラン、\*9のアオネカズラ、\*10のオニグルミ、\*11のサンヨウアオイ及び\*15のネコノメソウは、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により、植物の重要な種に相当すると判断したものである。
- \*12のコンロンソウ、\*13のアオベンケイ、\*16のトチバニンジン、\*17のツクシシャクナゲ、\*18のカワヂシャ、\*19のカンサイタンポポ、\*20のミズオオバコ、\*21のシライトソウ、\*22のヒナノシャクジョウ、\*24のムギラン、\*25のナツエビネ、\*26のカヤラン及び\*27のクモランは、「県内で希少」という専門家の指摘により、植物の重要な種に相当すると判断したものである。
- \*14のチダケサシは、「佐賀県で唯一の確認例」という専門家の指摘により、植物の重要な種に相当すると判断したものである。
- \*23のアブラシバは、「佐賀県で初の確認」という専門家の指摘により、植物の重要な種に相当すると判断したものである。
- \*28のオニノヤガラ属は、「佐賀県で初の確認」という専門家の指摘により、植物の重要な種に相当すると判断したものである。オニノヤガラ属は、調査時に開花しておらず、種までの同定ができていない。しかし、確認した個体はアキザキヤツシロランもしくはクロヤツシロランと考えられ、クロヤツシロランであれば「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I(維管束植物)(環境庁 2000年7月)」のENに該当する。
- 7.上記文献等に記載されている種のうち、専門家から栽培種あるいは逸出種であると判断されるといふ指摘を受けたビロードシダ、ニッケイ、ワサビ、ヤマブキ、ヒメハッカ、キキョウ、カノコユリ及びシランは対象から除外した。



表 4.1.6-9 植物の重要な種(陸上植物、大型水生植物)の現地調査の手法

調査すべき情報	現地調査手法	現地調査期間等
ウキゴケ <sup>*</sup> 、イチョウウキゴケ <sup>*</sup> 、ナツノハナワラビ、オオバノハチジョウシダ、ミドリカナワラビ、ツクシイワヘゴ、シロヤマシダ、サジラン、アオネカズラ、オニグルミ、ヒメコウホネ、サンヨウアオイ、ウンゼンカンアオイ、コンロンソウ、コイヌガラシ、アオベンケイ、チダケサシ、ネコノメソウ、ウメバチソウ、ミズマツバ、フサモ、ヤマウコギ、トチバニンジン、ツクシシャクナゲ、カラタチバナ、イガホオズキ、カワヂシャ、ミミカキグサ、ツルギキョウ、カンサイタンポポ、スプタ、ミズオオバコ、シライトソウ、ヒナノシャクジョウ、クロホシクサ、サヤヌカグサ、コガマ、アブラシバ、ピロードテンツキ、ムギラン、エビネ、ナツエビネ、キエビネ、キンラン、シュンラン、ツレサギソウ、カヤラン、ナゴラン、クモラン、オニノヤガラ属	踏査	調査期間:平成 15 年度 調査時期:春季、夏季、秋季 調査時間帯:昼間

表 4.1.6-10 植物の重要な種(陸上植物、大型水生植物)の現地調査の内容

調査すべき情報	現地調査の内容
植物の重要な種 分布、生育の状況及び生育環境の状況	踏査により、植物の重要な種の確認に努めた。植物の重要な種が確認された場合には、分布、生育の状況及び生育環境の状況(地形、周辺の植生の状況等)を記録した。

表 4.1.6-11 植物の重要な種(陸上植物、大型水生植物)の現地調査の実施状況

調査年度	調査時期			現地調査手法	調査対象
	春季	夏季	秋季		
平成 15 年度	3 月 11 日、12 日、17 日、18 日	6 月 2 日～6 日、9 日、7 月 28 日～31 日、8 月 4 日～7 日	10 月 6 日～9 日、21 日、23 日	踏査	ウキゴケ <sup>*</sup> 、イチョウウキゴケ <sup>*</sup> 、ナツノハナワラビ、オオバノハチジョウシダ、ミドリカナワラビ、ツクシイワヘゴ、シロヤマシダ、サジラン、アオネカズラ、オニグルミ、ヒメコウホネ、サンヨウアオイ、ウンゼンカンアオイ、コンロンソウ、コイヌガラシ、アオベンケイ、チダケサシ、ネコノメソウ、ウメバチソウ、ミズマツバ、フサモ、ヤマウコギ、トチバニンジン、ツクシシャクナゲ、カラタチバナ、イガホオズキ、カワヂシャ、ミミカキグサ、ツルギキョウ、カンサイタンポポ、スプタ、ミズオオバコ、シライトソウ、ヒナノシャクジョウ、クロホシクサ、サヤヌカグサ、コガマ、アブラシバ、ピロードテンツキ、ムギラン、エビネ、ナツエビネ、キエビネ、キンラン、シュンラン、ツレサギソウ、カヤラン、ナゴラン、クモラン、オニノヤガラ属

\*:環境巡視において、蘚苔類であるウキゴケ及びイチョウウキゴケが確認されている。これらの種に関しては、その後重要な種調査を行っている。

2) 調査結果

重要な種の確認状況を表 4.1.6-12 に示す。なお、確認地点については、重要な種の個体の保全の観点から示していない。

表 4.1.6-12 陸上植物、大型水生植物の重要な種の確認状況(1/2)

種名	確認年度
ウキゴケ*	平成 15 年度
イチョウウキゴケ*	平成 15 年度
ナツノハナワラビ	平成 12 年度
オオバノハチジョウシダ	昭和 61 年度、平成 6 年度、8 年度、9 年度、11 年度、14 年度、15 年度
ミドリカナワラビ	平成 6 年度、10 年度～13 年度、15 年度
ツクシイワヘゴ	平成 6 年度、11 年度～13 年度、15 年度
シロヤマシダ	平成 6 年度、11 年度～13 年度、15 年度
サジラン	平成 9 年度、11 年度、(12 年度、13 年度、15 年度)
アオネカズラ	平成 6 年度、9 年度、11 年度、(12 年度、13 年度、15 年度)
オニグルミ	平成 6 年度、8 年度、9 年度、11 年度、12 年度、14 年度、15 年度
ヒメコウホネ	平成 6 年度、13 年度
サンヨウアオイ	昭和 61 年度、平成 6 年度、15 年度
ウンゼンカンアオイ	平成 6 年度、8 年度～13 年度、15 年度
コンロンソウ	平成 6 年度、10 年度～15 年度
コイヌガラシ	昭和 61 年度、平成 6 年度、14 年度
アオベンケイ	平成 11 年度
チダケサシ	平成 14 年度、15 年度
ネコノメソウ	平成 12 年度
ウメバチソウ	平成 6 年度
ミズマツバ	平成 14 年度
フサモ	平成 6 年度
ヤマウコギ	平成 14 年度
トチバニンジン	平成 6 年度、9 年度～13 年度、15 年度
ツクシシャクナゲ	平成 11 年度、15 年度
カラタチバナ	平成 6 年度、13 年度、15 年度
イガホオズキ	平成 13 年度、15 年度
カワヂシャ	平成 6 年度、13 年度、14 年度
ミミカキグサ	平成 6 年度
ツルギキョウ	平成 11 年度
カンサイタンポポ	平成 11 年度
スプタ	平成 11 年度、15 年度
ミズオオバコ	平成 11 年度、15 年度
シライトソウ	平成 6 年度、8 年度、9 年度、11 年度～13 年度、15 年度
ヒナノシャクジョウ	平成 11 年度、15 年度
クロホシクサ	平成 12 年度
サヤヌカグサ	平成 6 年度、12 年度、14 年度、15 年度
コガマ	平成 10 年度～12 年度、15 年度
アブラシバ	平成 15 年度
ピロードテンツキ	平成 6 年度
ムギラン	平成 6 年度、11 年度、15 年度
エビネ	平成 6 年度、10 年度～13 年度、15 年度
ナツエビネ	平成 6 年度、15 年度
キエビネ	平成 6 年度、11 年度、12 年度、15 年度
キンラン	平成 6 年度、10 年度、15 年度
シュンラン	昭和 61 年度、平成 6 年度、8 年度～15 年度

表 4.1.6-12 陸上植物、大型水生植物の重要な種の確認状況(2/2)

種名	確認年度
ツレサギソウ	平成 12 年度、15 年度
カヤラン	平成 11 年度
ナゴラン	聴取による情報
クモラン	平成 11 年度、12 年度、15 年度
オニノヤガラ属	平成 15 年度

注)1.\*:ウキゴケ及びイチョウウキゴケは環境巡視で確認されており、その後重要な種調査を行っている。  
 2. サジラン及びアオネカズラの平成 12 年度、13 年度及び 15 年度の確認は、既に保全措置を実施している生育地の追認である。

a-1) ウキゴケ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 9 植物 II (維管束植物以外) (環境庁 2000 年 12 月)」<sup>2)</sup>に絶滅危惧 I 類として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州、沖縄<sup>5)</sup>に分布する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

池沼や水田、溝等の浅水で、比較的きれいな水であるところの水面下に群生、あるいは水湿地の泥土上に群生する<sup>18)</sup>。

iii) 調査結果

本種は、平成 15 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。本地点は改変されるおそれがあるため、一部の個体について仮移植を行っており、残存個体については今後も継続して移植を行う予定である。

確認地点は、水田跡地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の湿性地等にまれに生育すると考えられる。

#### a-2) イチヨウウキゴケ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 9 植物 II (維管束植物以外) (環境庁 2000 年 12 月)」<sup>2)</sup>に絶滅危惧 I 類として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州、沖縄<sup>18)</sup>に分布する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

小形の 1 年草<sup>18)</sup>である。全国各地の水田や池沼の水面に群生して浮漂生活するほか、水湿地の泥土上にも群生する<sup>18)</sup>。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 15 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。本地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

確認地点は、水田跡地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の湿性地等にまれに生育すると考えられる。

#### a-3) ナツノハナワラビ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては虚空蔵山<sup>5)</sup>、富士町北山ダム<sup>6)</sup>があげられる。

夏緑性<sup>4)</sup>である。山地の林下に生育する<sup>4)</sup>。

iii) 調査結果

本種は、平成 12 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、この生育地は既に消失していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えられる。

a-4) オオバノハチジョウシダ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は本州(福島県以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村脊振山、富士町古湯、羽金山、小城町清水、多久市北多久、相知町八幡岳、伊万里市大川町立川、西有田町竜門、北波多村山彦、山内町黒髪山、北方町杉ノ岳、鹿島市丸木庭、太良町多良岳、塩田町唐泉山、嬉野町虚空蔵山<sup>6)</sup>があげられる。

常緑性<sup>4)</sup>である。山地林下の溪流の近く等やや湿気のある場所に生育する<sup>4)</sup>。

### iii) 調査結果

本種は、昭和 61 年度、平成 6 年度、8 年度、9 年度、11 年度及び 14 年度の調査において、20 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、3 地点が追認され、また、新たに 4 地点の生育地が確認された。一方、7 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に谷筋、河川流入部等の湿潤な場所、河畔林や植林の林床、林縁等であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の広い範囲の樹林内で生育すると考えられる。

### a-5) ミドリカナワラビ

#### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

#### ii) 生態

本種は、本州(神奈川県以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村脊振山、九千部山、相知町岸岳<sup>5)</sup>があげられる。

常緑性<sup>4)</sup>である。山地林下に生育する<sup>4)</sup>。

#### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 10 年度～13 年度の調査において、8 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確

認を行ったところ、4 地点が追認され、また、新たに 2 地点の生育地が確認された。一方、3 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に斜面中部や谷筋のスギ植林、マダケ-モウソウチク林の適湿な林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の広い範囲の樹林内に点在して生育すると考えられる。

#### a-6) ツクシイワヘゴ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

##### ii) 生態

本種は、本州(千葉県、石川県以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては基山町、東脊振村小川内、蛤岳、富士町長野峠、羽金山、多久市宮ノ浦、北多久、七山村国有林、大屋敷、巖木町広瀬、牧瀬、伊万里市山ノ寺、武雄市御船山、北波多村行合野<sup>6)</sup>があげられる。

常緑性<sup>4)</sup>である。山地林下のやや湿った場所に生育する。九州では大きな群落があるが、他の地域ではさほど大きな群落はない<sup>4)</sup>。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 11 年度～13 年度の調査において、7 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、2 地点が追認され、また、新たに 1 地点の生育地が確認された。一方、5 地点では既に生育地が消失していた。



確認地点は、主に斜面中部や谷筋のスギ植林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の広い範囲の樹林内に点在して生育すると考えられる。

#### a-7) シロヤマシダ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

##### ii) 生態

本種は、本州(関東、北陸地方以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては鳥栖市九千部山、脊振村脊振山、小城町清水、多久市北多久町蜂巣、相知町岸岳、佐里、伊万里市大川町立川、今岳、大川内山、岩谷、黒髪山、武雄市繁昌、太良町中山、嬉野町虚空蔵山<sup>6)</sup>があげられる。

一般には常緑性<sup>4)</sup>である。山地林下のやや湿った場所に生育する<sup>4)</sup>。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 11 年度～13 年度の調査において、3 地点で生育が確認された。このうち、2 地点は改変されるおそれがあるため、既に仮移植を行っている。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1 地点が追認され、新たに 2 地点の生育地が確認された。

確認地点は、尾根部、斜面下部及び谷沿いのスギ植林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、二次林、植林地を問わず生育するものの、当該地域では少ないと考えられる。

#### a-8) サジラン

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

##### ii) 生態

本種は、本州(東北地方南部以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町古湯、富士町上関屋、羽金山、伊万里市烏帽子岳、太良町中山<sup>6)</sup>があげられる。

常緑性<sup>4)</sup>である。山地の林下の岩上や樹幹に着生する<sup>4)</sup>。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 9 年度及び 11 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。また、平成 12 年度及び 13 年度の環境巡視においても、同地点での生育が確認された。

本生育地は、付替道路建設予定地の直近に位置するため、寒冷紗及びビニールシートで保護し、環境巡視により生育状況を監視しており、平成 15 年度の調査においても生育が確認された。

#### a-9) アオネカズラ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周

辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州(埼玉県、富山県以西)、四国、九州<sup>4)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては鳥栖市石谷山、脊振村岩屋、広滝、富士町上関屋、鹿島市平谷、奥山、三河内、中川内、広平、嬉野町春日、万財<sup>6)</sup>があげられる。

冬緑性<sup>4)</sup>である。山地林下の岩上や樹幹に着生する<sup>4)</sup>。

iii) 調査結果

本種は、平成 9 年度及び 11 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。また、平成 12 年度及び 13 年度の環境巡視においても、同地点での生育が確認された。

このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に調査地域内のいずれかで確認された記録がある。

本生育地は、前述のサジランと同一地点であり、付替道路建設予定地の直近に位置するため、寒冷紗及びビニールシートで保護し、環境巡視により生育状況を監視しており、平成 15 年度の調査においても生育が確認された。

a-10) オニグルミ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I(維管束植物)(環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州<sup>7)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町大野、熊川、脊振村東鹿路<sup>6)</sup>があげられる。

落葉高木<sup>7)</sup>である。川沿いの湿気の多い所に生育する<sup>7)</sup>。

### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度、8 年度、9 年度、11 年度、12 年度及び 14 年度の調査において、8 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、2 地点が追認された。一方、1 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、全て河岸であり、確認された個体は斜面や草原、林縁等に生育していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の河岸に点在すると考えられる。

### a-11) ヒメコウホネ

#### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

#### ii) 生態

本種は、本州、四国<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては黒髪山<sup>5)</sup>、山内町赤田<sup>6)</sup>、佐賀市<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>8)</sup>である。ため池、河川の淀みなどに生育する浮葉植物<sup>9)</sup>である。水位が下がると抽水形をとる<sup>9)</sup>。花期は 6 月～10 月<sup>9)</sup>である。

#### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 13 年度の調査において、5 地点で生育が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川の下流部に点在して生育すると

考えられる。

#### a-12) サンヨウアオイ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

##### ii) 生態

本種は、本州(中国地方西部)、四国南西部、九州北部<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては作礼山、北山、蛤岳<sup>5)</sup>があげられる。

常緑の多年草<sup>8)</sup>である。山地の林下に生育する<sup>8)</sup>。花は4月に開花する<sup>8)</sup>。

##### iii) 調査結果

本種は、昭和 61 年度及び平成 6 年度の調査において、4 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、4 地点が追認され、また、新たに 3 地点の生育地が確認された。

確認地点は、主に尾根沿いの広葉樹林及び植林地の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、二次林や植林地に点在して生育すると考えられる。

#### a-13) ウンゼンカンアオイ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県

の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、福岡県、長崎県、熊本県<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては佐賀県東部<sup>3)</sup>があげられる。

常緑の多年草<sup>8)</sup>である。山地の林下に生育する<sup>8)</sup>。

iii) 調査結果

本種は、平成6年度及び8年度～13年度の調査において、72地点で生育が確認された。

また、平成11年度～13年度の環境巡視においては、工事予定区域の各所で確認された記録があり、このうち、西畑瀬及び東畑瀬に生育する数株は既に仮移植を行っている。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、36地点が追認され、また、新たに23地点の生育地が確認された。一方、36地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、斜面の植林地、広葉樹林、竹林、伐採跡地等多様であるが、主として樹林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林の林床に広く生育すると考えられる。

a-14) コンロンソウ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、北海道～九州<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町<sup>3)</sup>、富士町羽金山、柚木<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>8)</sup>である。山地や川辺の水湿地に生育する<sup>8)</sup>。花期は4月～7月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成6年度及び11年度～14年度の調査において、12地点で生育が確認された。また、平成10年度の環境巡視において、1地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、6地点が追認され、また、新たに3地点の生育地が確認された。一方、2地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に道路法面、道路脇、草原、河川敷等の開けた環境であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の河岸に点在して生育すると考えられる。

a-15) コイヌガラシ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000年7月)」<sup>1)</sup>に準絶滅危惧として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州(関東以西)～九州<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては佐賀市蓮池町、本庄町、嘉瀬町、川副町西川副<sup>6)</sup>があげられる。

1年草か越年草<sup>8)</sup>である。水湿地に多く生育する<sup>8)</sup>。花期は4月～5月<sup>8)</sup>である。



### iii) 調査結果

本種は、昭和 61 年度及び平成 14 年度の調査において、2 地点で生育が確認された。

また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に調査地域内で確認された記録がある。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1 地点では既に生育地が消失していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、河川下流部の河岸等に点在して生育すると考えられる。

## a-16) アオベンケイ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

### ii) 生態

本種は、本州(中部地方以西)～九州<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町羽金山、小城町天山、鎮西町馬渡島、西有田町国見山<sup>6)</sup>、富士町、七山村、鎮西町<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>8)</sup>である。山地の樹上、岩上に生育する<sup>8)</sup>。花期は 9 月～10 月<sup>8)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成 11 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。本地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えら

れる。

a-17) チダケサシ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

また、「佐賀県で唯一の確認例」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町<sup>3)</sup>、富士町古湯<sup>5)</sup>があげられる。

多年草<sup>11)</sup>である。湿り気のある河岸に生育する<sup>3)</sup>。花期は6月下旬～8月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成14年度の調査において、3地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、全ての地点が追認された。

確認地点は、樹林が後背にせまる河岸の岩場付近であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川渓谷部の岩場等に生育すると考えられる。

a-18) ネコノメソウ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8植物I(維管束植物)(環境庁 2000年7月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「自生種であり、かつ嘉瀬川流域周

辺で数が少ない種」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村脊振山、佐賀市金立、武雄市御船山<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>11)</sup>である。山麓の湿地や谷間、時には水田等にも生育する<sup>8)</sup>。花期は4月～5月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成12年度の調査において、1地点で生育が確認された。本地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えられる。

a-19) ウメバチソウ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州～九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては小城町、嬉野町<sup>3)</sup>、富士町雷山、小城町天山、相知町八幡岳、巖木町杉宇土、嬉野町大野原<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>8)</sup>である。山地の日当たりの良い湿地に生育する<sup>8)</sup>。花期は8月～10月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成6年度の調査において、1地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確

認を行ったところ、この生育地は既に消失していた。

a-20) ミズマツバ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類として掲載されている。

ii) 生態

本州～琉球<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては基山町黒岩、山内町、白石町秀津、嬉野町式浪<sup>6)</sup>があげられる。

小さな 1 年草である<sup>8)</sup>。水田や湿地に生育する。花期は 8 月～10 月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 14 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。

確認地点は、河岸に接する水田の畦であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、水田等にまれに生育すると考えられる。

a-21) フサモ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道(西南部)、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては七山村、相知町、伊万里市<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>8)</sup>である。池や沼等に生育する<sup>8)</sup>。花期は 5 月～7 月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度の調査において、3 地点で生育が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川下流部の堰による湛水域等の静水域に点在して生育すると考えられる。

a-22) ヤマウコギ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村脊振山、富士町市川<sup>6)</sup>があげられる。

落葉低木<sup>12)</sup>である。低地の林内に生育する<sup>12)</sup>。花期は 5 月～6 月<sup>12)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 14 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えられる。

a-23) トチバニンジン

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

北海道～九州<sup>8)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては鳥栖市、脊振村、富士町、小城町、多久市、相知町、太良町<sup>3)</sup>、鳥栖市九千部山、脊振村脊振山、田中、相知町八幡岳、作礼山、巖木町天川通石権現<sup>6)</sup>があげられる。

多年草である<sup>8)</sup>。山地の林下に生育する<sup>8)</sup>。花期は6月～8月<sup>8)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成6年度及び9年度～13年度の調査において、15地点で生育が確認された。このうち、1地点は改変されるおそれがあるため、既に仮移植を行っている。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、6地点が追認され、また、新たに6地点の生育地が確認された。一方、7地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に谷沿いや沢沿いの、スギ植林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内に点在して生育すると考えられる。

a-24) ツクシシャクナゲ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州(紀伊半島)、四国、九州<sup>12)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては太良町、富士町<sup>3)</sup>、鬼ヶ鼻、杉山、青螺山、嬉野、虚空蔵山、矢筈、多良岳<sup>5)</sup>があげられる。

林内に散在する<sup>3)</sup>。

### iii) 調査結果

本種は、平成 11 年度の調査において、2 地点で生育が確認された。また、平成 11 年度の環境巡視において、1 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、2 地点が追認され、また、新たに 2 地点の生育地が確認された。一方、1 地点では既に生育地が消失していた。なお、2 地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

確認地点は、主に尾根部の植林地内であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内に点在して生育すると考えられる。

## a-25) カラタチバナ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、本州(茨城県、新潟県以西)、四国、九州、琉球<sup>12)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては東脊振村<sup>3)</sup>、上峰村下坊所、東脊振村小川内、脊振村田中<sup>6)</sup>があげられる。

常緑の小低木<sup>12)</sup>である。常緑樹林内に生育する<sup>12)</sup>。花期は 7 月<sup>12)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 13 年度の調査において、3 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、全ての地点が追認された。



確認地点は、尾根部、河岸の竹林の林床等であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内に点在して生育すると考えられる。

#### a-26) イガホオズキ

##### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、北海道～九州<sup>9)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては小城町、嬉野町<sup>3)</sup>、脊振村脊振山、富士町羽金山、山内町黒髪山、鹿島市平谷、浄土山、太良町大平、嬉野町虚空蔵山<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>13)</sup>である。山地の林縁に生育する<sup>13)</sup>。花期は6月～8月<sup>13)</sup>である。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 13 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、本生育地は追認された。

確認地点は、斜面中腹の植林地であり、平成 13 年度確認時は伐開地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の林縁部にまれに生育すると考えられる。

#### a-27) カワヂシャ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に準絶滅危惧として掲載さ

れている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州(中部以西)、四国、九州、琉球<sup>13)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては大和町大願寺、多久市納所、山内町、嬉野町式浪、今寺、皿屋谷<sup>6)</sup>があげられる。

越年草<sup>13)</sup>である。川岸、溝のふちや田に生育する<sup>13)</sup>。花期は5月～6月<sup>13)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成13年度及び14年度の調査において、7地点で生育が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度に調査地域内で確認された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川下流部の河川敷に点在して生育すると考えられる。

a-28) ミミカキグサ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州～琉球<sup>13)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては東脊振村三津、神埼町日ノ隈山、富士町杉山、黒髪山<sup>6)</sup>、七山村、浜玉町、富士町、武雄市、巖木町<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>13)</sup>である。湿地生ではあるが、泥、ミズゴケ、砂等いろいろなものの上に生育することができるので、水位の変化する溜池の縁にも多く生育し、

水位が下がった時には水面上 1m を超えるような所に見かけることも稀ではない<sup>9)</sup>。花期は 8 月～10 月<sup>13)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度の調査において、栗並川上流部の湿地の 1 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に生育地の再確認を行ったところ、生育地は追認されなかった。なお、専門家への聴取により、既往の確認地点である栗並川上流部の湿地は、圃場整備により消失したとの情報を得た。

生態情報及び確認状況から、本種は、栗並川上流部の湿地に局所的に生育していたと考えられる。

## a-29) ツルギキョウ

### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、本州(関東以西)～九州<sup>13)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては嬉野町、鹿島市、山内町、武雄市、伊万里市、西有田町<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>13)</sup>である。山地に稀に生育する<sup>13)</sup>。花期は 8 月～10 月<sup>13)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成 11 年度の調査において、1 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、この生育地は既に消失していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えら

れる。

a-30) カンサイタンポポ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州の長野県以西、関西、四国、九州、琉球<sup>13)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>13)</sup>である。道端にごく普通に生育する<sup>14)</sup>。花期は2月～5月<sup>14)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成11年度の調査において、2地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、これらの生育地は既に消失していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の路傍等にまれに生育すると考えられる。

a-31) スブタ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8植物 I (維管束植物) (環境庁 2000年7月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 I 類種(1)として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州～琉球<sup>15)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては肥前町<sup>3)</sup>があげられる。

水田やため池に生育する沈水植物<sup>9)</sup>の1年草<sup>15)</sup>である。かつては普通の水田雑草であったが、除草剤の使用や水質汚濁の進行によって、きわめて稀な水草になっている<sup>9)</sup>。7月～10月ごろ目立たない花を付ける<sup>9)</sup>。

iii) 調査結果

本種は、平成11年度の調査において、2地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1地点が追認され、また、新たに2地点の生育地が確認された。なお、3地点は改変されるおそれがあるため、一部の個体について仮移植を行っており、残存個体については今後も継続して移植を行う予定である。

確認地点は、全て谷沿いの放棄水田跡の湿地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の放棄水田等にまれに生育すると考えられる。

a-32) ミズオオバコ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州～九州の温帯、暖帯<sup>15)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては伊万里市、太良町、鎮西町、佐賀市、神埼町<sup>3)</sup>、佐賀市鍋島、山内町、塩田町美野<sup>6)</sup>があげられる。

1 年生の沈水植物<sup>9)</sup>である。ため池、水路、水田等に生育する。水深等によってサイズと葉形は大きく変化し、水田で見かける小形の植物体と、溜池等で成長した大形の植物体は、同種とは思えないほどである<sup>9)</sup>。花期は8月～10月<sup>9)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成11年度の調査において、1地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、新たに1地点の生育地が確認された。なお、1地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

確認地点は、谷沿いの放棄水田跡の湿地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の放棄水田等にまれに生育すると考えられる。

## a-33) シライトソウ

### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

### ii) 生態

本種は、本州(関東地方、新潟県以西)、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>15)</sup>である。山地の林中に生育する<sup>15)</sup>。花期は5月～6月<sup>15)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成6年度、8年度、9年度、11年度及び13年度の調査において、14地点で生育が確認された。また、平成9年度及び12年度の環境巡視におい

て、2地点で生育が確認された。

このほか、平成13年度の環境巡視においては、東畑瀬及び菖蒲に生育する個体を西畑瀬に仮移植し、生育状況を監視しており、一部の区域では付替道路の線形を変更し、生育地を保全した。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、10地点が追認され、また、新たに6地点の生育地が確認された。一方、1地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に山地の斜面のスギ植林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内に点在して生育すると考えられる。

#### a-34) ヒナノシャクジョウ

##### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

##### ii) 生態

本種は、本州(中、西部)、四国、九州に稀に産する<sup>10)</sup>。佐賀県内の産地としては太良町、富士町、塩田町<sup>3)</sup>、伊万里市大川内山、中山キャンプ場<sup>6)</sup>があげられる。

腐生の多年草または1年草<sup>15)</sup>である。林下の落葉の中に生育する<sup>16)</sup>。花期は8月～10月<sup>15)</sup>である。

##### iii) 調査結果

本種は、平成11年度の調査において、2地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1地点が追認され、また、新たに3地点の生育地が確認さ

れた。一方、1地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、主に山地の斜面の植林地の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内にまれに生育すると考えられる。

#### a-35) クロホシクサ

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 IB 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 I 類種(1)として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、本州(関東地方、富山県以西)、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては嬉野町<sup>3)</sup>、基山町小倉、上峰村堤、鎮西、東脊振村三津、大曲、佐賀市金立、山内町、嬉野町大野原<sup>6)</sup>があげられる。

湿地に生育する、1年草<sup>15)</sup>である。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 12 年度の調査において、1地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、この生育地は既に消失していた。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域ではまれに生育すると考えられる。

#### a-36) サヤヌカグサ

##### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさ



が - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道(西南部)、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町、佐賀市<sup>3)</sup>があげられる。

多年草<sup>10)</sup>で、池畔、溝中等の水湿地に生育する<sup>10)</sup>。花期は8月～10月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成12年度及び14年度の調査において、2地点で生育が確認された。

また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度に調査地域内で確認された記録がある。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1地点が追認された。

確認地点は、山麓部の水田及び民家近くの水路であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の溝や湿性地等にまれに生育すると考えられる。

a-37) コガマ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては浜玉町、七山村<sup>3)</sup>、佐賀市、相知、八幡岳、伊万里<sup>5)</sup>、中原町、大和町春日山、玄海町

牟形、巖木町天川<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>15)</sup>である。池沼中に生育する<sup>10)</sup>。花期は7月～8月<sup>16)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成10年度～12年度の調査において、3地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、2地点が追認され、また、新たに3地点の生育地が確認された。一方、1地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、谷沿いの放棄水田跡の湿地、水田脇の小さな溜め池等であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の湿性地等にまれに生育すると考えられる。

## a-38) アブラシバ

### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に掲載されていないが、「佐賀県で初の確認」という専門家の指摘により重要な種とした。

### ii) 生態

本種は、本州(福島以南)～九州<sup>13)</sup>に分布する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

山中の裸地に生える多年草<sup>13)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成15年度の調査において、1地点で生育が確認された。

確認地点は、道路脇の盛土された乾性草地であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、佐賀県の生育記録がなく、当該地域で

は土の搬入の際、埋土種子が発芽したものと考えられる。

a-39) ビロードテンツキ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧Ⅰ類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州(茨城県、富山県以西)<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては唐津市<sup>3)</sup>、唐津市虹ノ松原<sup>6)</sup>があげられる。

多年草<sup>16)</sup>である。海岸の砂地に生育する<sup>15)</sup>。花期は8月～10月<sup>16)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成6年度の調査において、1地点で生育が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、嘉瀬川下流部の河川敷にまれに生育すると考えられる。

a-40) ムギラン

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8植物Ⅰ(維管束植物)(環境庁 2000年7月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧Ⅱ類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧Ⅱ類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州(中、西部)、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては脊振村<sup>3)</sup>、富士町須田、山内町黒髪山、塩田町唐泉山<sup>6)</sup>があげられる。

着生の多年草<sup>15)</sup>である。常緑樹林内の樹上や岩上に着生する<sup>15)</sup>。花期は6月～7月<sup>15)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成6年度及び11年度の調査において、2地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1地点が追認された。一方、1地点では既に生育地が消失していた。なお、1地点は改変されるおそれがあるため、植物体の一部について仮移植を行った。

確認地点は、尾根筋斜面中部のホオノキ林の林床及び尾根筋の広葉樹林内であり、センノキの樹幹から太枝裏面に着生しているのが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内にまれに生育すると考えられる。

## a-41) エビネ

### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8植物I(維管束植物)(環境庁 2000年7月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧II類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧II類種として掲載されている。

### ii) 生態

本種は、北海道(西南部)、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては富士町、相知町、南多久町<sup>3)</sup>、相知町岸岳、巖木町、山内町黒髪山、伊万里市腰岳、鹿島市浄土山<sup>6)</sup>があげられる。

地生の多年草<sup>15)</sup>である。雑木林の下など<sup>15)</sup>に生育する。花期は4月～5月頃<sup>16)</sup>である。

### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 10 年度～13 年度の調査において、15 地点で生育が確認された。

また、平成 11 年度及び 12 年度の環境巡視において、6 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、3 地点が追認され、また、新たに 12 地点の生育地が確認された。一方、14 地点では既に生育地が消失していた。なお、4 地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

確認地点は、主に山地の斜面の植林地、竹林及び広葉樹林等の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内の広い範囲に生育すると考えられる。

### a-42) ナツエビネ

#### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

#### ii) 生態

本種は、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては伊万里市、相知町、七山村<sup>3)</sup>、七山村浮岳、相知町八幡岳、伊万里市烏帽子岳<sup>6)</sup>があげられる。

地生の多年草<sup>15)</sup>である。やや湿った落葉樹林下<sup>15)</sup>に生育する。花期は、7 月～8 月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度の調査において、2 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、新たに 2 地点の生育地が確認された。一方、1 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、砂防ダム上の堆積地、河原、斜面上部のスダジイ萌芽林及び植林地等の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内にまれに生育すると考えられる。

a-43) キエビネ

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 IB 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 I 類種(1)として掲載されている。

ii) 生態

本種は、東海道以西、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては有田町、伊万里市、相知町、北波多村、富士町<sup>3)</sup>、巖木町、山内町黒髪山、鹿島市浄土山<sup>6)</sup>があげられる。

地生の多年草<sup>15)</sup>である。森林樹下に生育する<sup>15)</sup>。花期は 4 月～5 月頃<sup>16)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度、11 年度及び 12 年度の調査において、5 地点で生育が確認された。また、平成 11 年度の環境巡視において、1 地点で生育が確認さ

れた。このうち、3 地点は改変されるおそれがあるため、既に仮移植を行っている。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、1 地点が追認された。一方、2 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、斜面の植林地の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内に点在して生育すると考えられる。

#### a-44) キンラン

##### i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 II 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては唐津市、七山村、小城町、富士町<sup>3)</sup>、鳥栖市城山、富士町山葉、小城町石体、天山、多久市西ノ原、相知町岸岳、八幡岳、嬉野町式浪<sup>6)</sup>があげられる。

地生の多年草<sup>15)</sup>である。山や丘陵地の疎林下に生育する<sup>15)</sup>。花期は 4 月～6 月<sup>15)</sup>である。

##### iii) 調査結果

本種は、平成 6 年度及び 10 年度の調査において、2 地点で生育が確認された。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、新たに 3 地点の生育地が確認された。一方、1 地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、斜面の林縁や植林地の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内にまれに生育すると考えられる。

#### a-45) シュンラン

##### i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に準絶滅危惧種として掲載されている。

##### ii) 生態

本種は、北海道(奥尻島)、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては山内町、黒髪山、塩田町辺田、嬉野町式浪<sup>6)</sup>、七山村、多久市、武雄市、小城町、富士町<sup>3)</sup>があげられる。

着生または地生の多年草<sup>15)</sup>である。おもに乾いた落葉樹林の林床<sup>15)</sup>に生育する。花期は3月～4月<sup>15)</sup>である。

##### iii) 調査結果

本種は、昭和 61 年度、平成 6 年度及び 8 年度～14 年度の調査において、64 地点で生育が確認された。また、平成 11 年度の環境巡視において、1 地点で生育が確認された。

このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 11 年度に調査地域内で確認された記録がある。

平成 15 年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、38 地点が追認され、また、新たに 14 地点の生育地が確認された。一方、24 地点では既に生育地が消失していた。なお、1 地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

確認地点は、そのほとんどが広葉樹林及び植林地の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内の広い範囲に生育す



ると考えられる。

a-46) ツレサギソウ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧Ⅰ類種(1)として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては相知町<sup>3)</sup>、相知町岸岳、嬉野町虚空蔵山<sup>6)</sup>があげられる。

地生の多年草<sup>15)</sup>である。日当たりの良い草原や湿った林下に生育する<sup>15)</sup>。花期は5月～6月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成12年度の調査において、1地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、本生育地は追認された。

確認地点は、スギ植林横の柿の木の下であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林内にまれに生育すると考えられる。

a-47) カヤラン

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧Ⅱ類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は本州、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては七山村<sup>3)</sup>、鳥栖市九千部山、脊振村田中、鹿島市平谷<sup>6)</sup>、脊振山、金立山、御船山、多良岳<sup>5)</sup>があげられる。

着生の多年草<sup>15)</sup>である。常緑樹林内の樹幹に着生する<sup>15)</sup>。花期は3月～5月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成11年度の調査において、1地点で生育が確認された。本地点は改変されるおそれがあるため、仮移植を行った。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林にまれに生育すると考えられる。

a-48) ナゴラン

i) 重要性

本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」<sup>1)</sup>に絶滅危惧 IA 類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 I 類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州(静岡県東部以西)、四国、九州、沖縄<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては塩田町<sup>3)</sup>、塩田町唐泉山<sup>6)</sup>があげられる。

着生の多年草<sup>15)</sup>である。常緑草本<sup>10)</sup>である。常緑広葉樹林内の樹幹または岩上に着生する<sup>15)</sup>。花期は6月～8月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、専門家への聴取により嘉瀬川ダム建設予定地の下流、左岸の山麓で生育するとの情報を得た。しかし、現地調査では確認できなかった。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域の樹林にまれに生育すると考

えられる。

a-49) クモラン

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」<sup>3)</sup>に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

また、「県内で希少」という専門家の指摘がある。

ii) 生態

本種は、本州(関東地方以西)、四国、九州<sup>10)</sup>に分布する。佐賀県内の産地としては武雄市、多久市、富士町、佐賀市、脊振村<sup>3)</sup>、多久市東原、武雄市御船山、繁昌、黒髪山、嬉野町式浪<sup>6)</sup>があげられる。

着生の多年草<sup>15)</sup>である。日当たりの良い所の大型の低木に着生する<sup>15)</sup>。花期は6月～7月<sup>15)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成11年度及び12年度の調査において、8地点で生育が確認された。

平成15年度に対象事業実施区域及びその周辺の区域の生育地について再確認を行ったところ、5地点が追認され、また、新たに3地点の生育地が確認された。一方、3地点では既に生育地が消失していた。

確認地点は、谷沿いの水田であり、水路の脇に生育しているカキノキに多数着生しているのが確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、日当たりの良い耕作地等に生育する低木にまれに着生していると考えられる。

a-50) オニノヤガラ属

i) 重要性

本種は、「佐賀県で初の確認」という専門家の指摘により、重要な種とした。確認した個体はアキザキヤツシロランもしくはクロヤツシロランと考えられ、クロヤツシロランであれば「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 8 植物 I (維管束植物) (環境庁 2000 年 7 月)」の絶滅危惧 IB 類に該当する。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州<sup>5)</sup>に分布する。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

雑木林の林内に生える葉緑素のない腐生植物<sup>17)</sup>である。

iii) 調査結果

本種は、平成 15 年度の調査において、2 地点で生育が確認された。

確認地点は、斜面中部の植林地及び竹林の林床であった。

生態情報及び確認状況から、本種は、佐賀県の生育記録がなく、当該地域ではまれに生育すると考えられる。